

# 株式会社ソフトフロント

## 2012年3月期 通期決算説明資料

---

2012年5月16日

この資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しのみで全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いします。



# 2012年3月期 通期業績の概要

---

取締役 財務・管理統括担当 佐藤健太郎

## 業績の概要

(単位：百万円)

	2011年3月期 通期	2012年3月期 通期	前年同期比 (%)	増減
売上高	783	773	98.7%	△10
営業損益	10	△13	—	△24
経常損益	11	△16	—	△27
当期純損益	8	△18	—	△26

NTTグループとの業務・資本提携を背景としたNGN関連分野が進展、複合機メーカー向けの分野も堅調に推移したものの、電機メーカー各社の開発計画が縮小・延期したことなどにより、売上が減少。

## 「売上高」の状況

(単位：百万円)

	2011年3月期 通期	2012年3月期 通期	前年同期比 (増減額)
売上高	783	773	△10
ソフトウェア販売	308	197	△111
受託開発	470	562	91
その他	4	13	9

ソフトウェア販売は減少したものの、量産ライセンス対象機器は増加傾向にあり、今後の継続収入が期待できる。受託開発は、NGN関連分野ならびに複合機メーカー向け分野における開発案件が増え、増加。

## 2012年3月期：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	128
税引前当期純利益	△16
減価償却費	68
売上債権の増減額 (△増加)	105
仕入債務の増減額 (△減少)	0
その他	△30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△103
財務活動によるキャッシュ・フロー	1
現金及び現金同等物の増減額	△26
現金及び現金同等物の四半期末残高	320
フリー・キャッシュ・フロー	25



# 事業展開について

---

代表取締役社長 阪口克彦

## 経営基本方針

- ◆ 当社のSIP技術をデファクトスタンダードにする
- ◆ ソフトウェアの**ライセンスビジネス**を成功させる

**➡ 事業の進展に対する大きな変更要素なく、基本方針維持**

## 「収益基盤拡大に向けて」－ 2012年3月期成果

2010年5月に掲げた「中期経営方針」のもと、  
「収益基盤拡大に向けて」という形で重点的に取り組んできた、  
2012年3月期の成果と課題

- 次世代ネットワークNGNの商用サービスが、順調に進展
- 複合機メーカー向けの分野も堅調に推移
- 商用ライセンスの製品種別が前年度より増加
- 電機メーカー各社の不振により、売上が想定を下回る
- 電力事業者向けの特需が一旦落ち着いたため、  
前年度と比べ、ライセンス売上が減少



## 「収益基盤拡大に向けて」－ 2013年3月期の取り組み

今後の収益拡大に向け、さらなる対応を進めてまいります。

- 安定した収益を確保できる分野の創出、拡大
- ➔ 期末納品特性とは異なる分野の創出拡大で業績の安定化を図る
- ライセンスビジネスに重点をおいた事業展開
- ➔ 量産ライセンス対象機器を増やし業績の安定化を図る

2011年に共同で設立したデジタルポスト株式会社においてサービスを開始した「LiveCard」事業のように、これまでの当社事業とは異なる分野への取り組みを進めてまいります。

## 「黒字体質への転換に向けて」－ 2012年3月期成果

2010年5月に掲げた「中期経営方針」のもと、  
「黒字体質への転換に向けて」という形で重点的に取り組んできた、  
2012年3月期の成果と課題

- 前半、好調であった売上に対応し、増加した費用を後半で調整しきれなかった

## 「黒字体質への転換に向けて」－ 2013年3月期の取り組み

今後の黒字確保に向け、さらなる対応を進めてまいります。

### ➔ 柔軟な費用構造の維持進展

変動部分に対する対応の早期化で業績の安定化を図り、さらなる稼働管理、経費管理を行い、年間で費用を適正化できるようにしてまいります。

## 参考資料

---



## 企業理念（＝私たちの存在意義）

技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり豊かな社会を実現すること

※ 社会環境の変化：ユビキタスネットワーク社会の実現

※ SIPを活用した end-to-end（人と人、機器と機器、人と機器）のネットワーク環境を実現

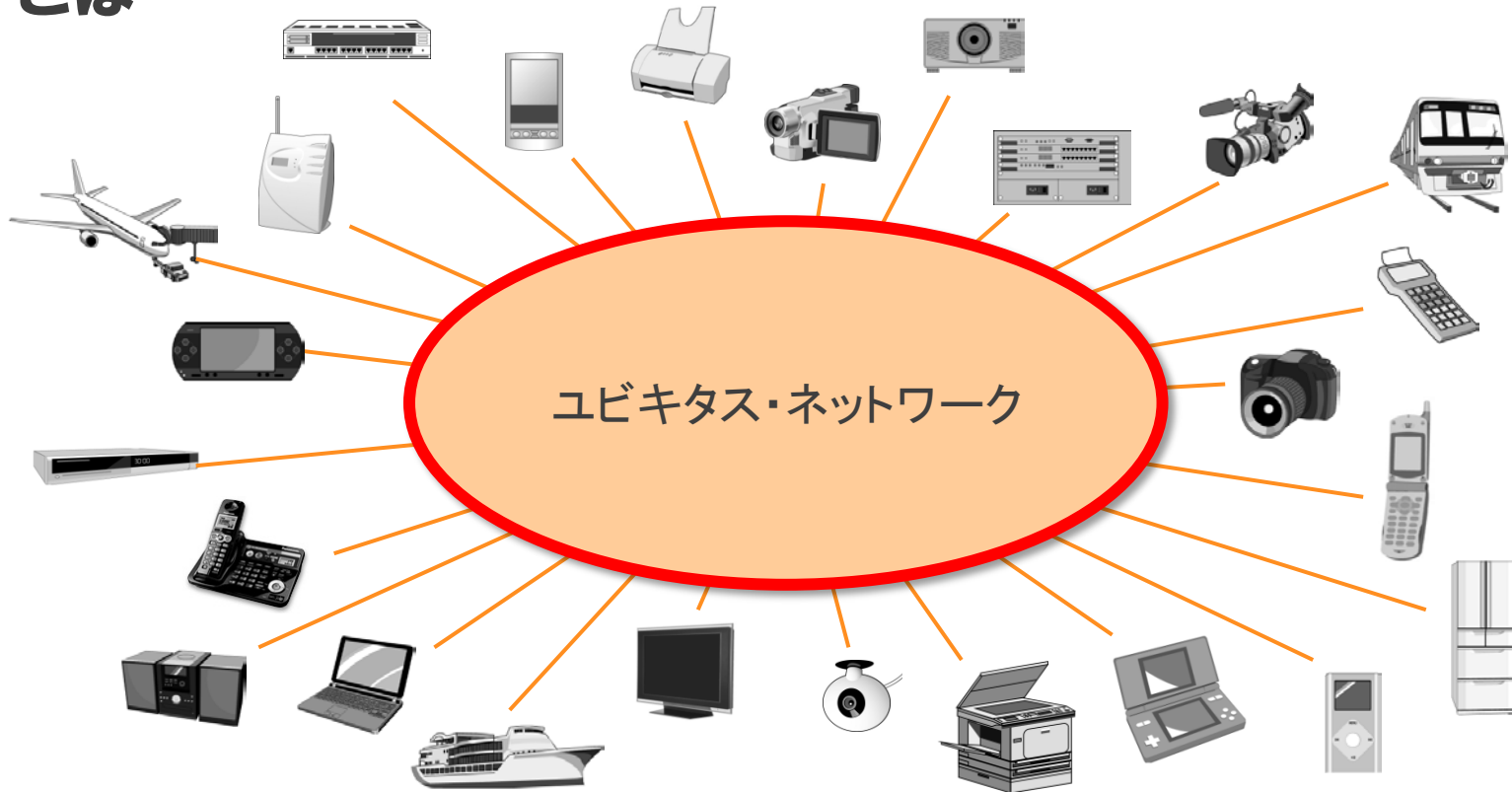
## ビジョン

- ・ 当社SIP技術をデファクトスタンダードにする
- ・ ライセンスビジネスの成功

・ 社名	株式会社ソフトフロント
・ 上場市場	大阪証券取引所「JASDAQ」（2002年9月10日上場）
・ 証券コード	2321
・ 設立	1997年4月18日
・ 所在地	東京本社 東京都港区赤坂4丁目2-19 赤坂SHASTA・EAST 3F 札幌本社 札幌市中央区北9条西15丁目 札幌ITフロントビル 3F
・ 代表取締役	社長 阪口克彦
・ 従業員数	64名
・ 資本金	27億9,247万円
・ 決算月	3月
・ 事業内容	<b>SIP、VoIP</b> 技術を核としたソフト開発環境の提供 および 技術支援、関連する受託開発・コンサルティング
・ URL	www.softfront.co.jp

（2012年4月1日現在）

# SIPとは



## ユビキタスネットワーク社会

「いつでも、どこでも、何でも、誰でもネットワークにつながるにより...」

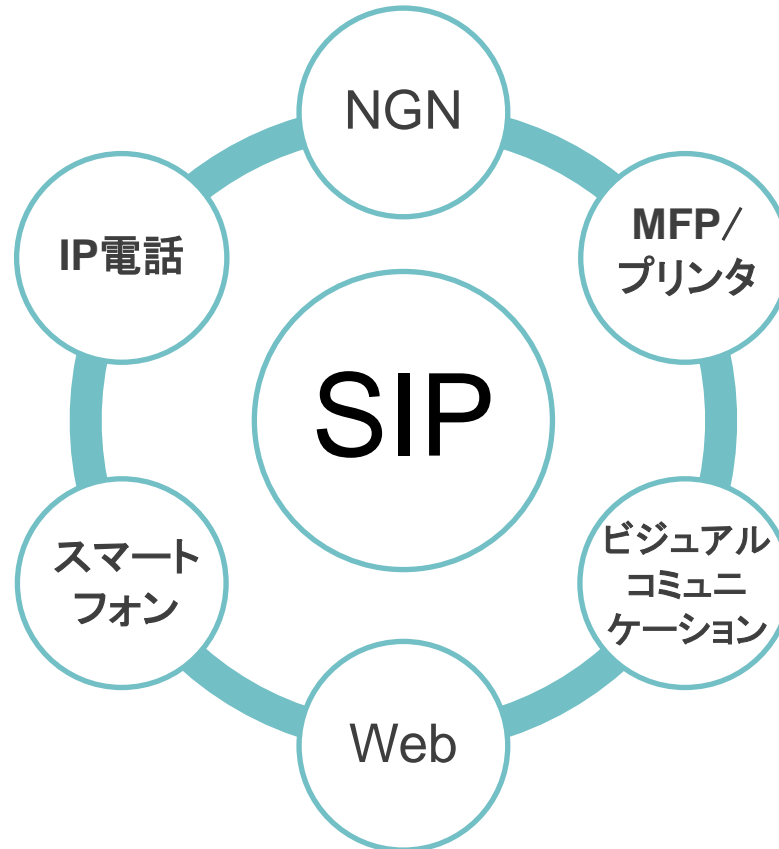
- (時には移動する)相手を探し出す。 ● 相手とつなぐ。
- (刻々変わる)相手の状態を知る。 ● 相手に自分の状態を知らせる。
- 何をどうやり取りするかを(その場で)決める。



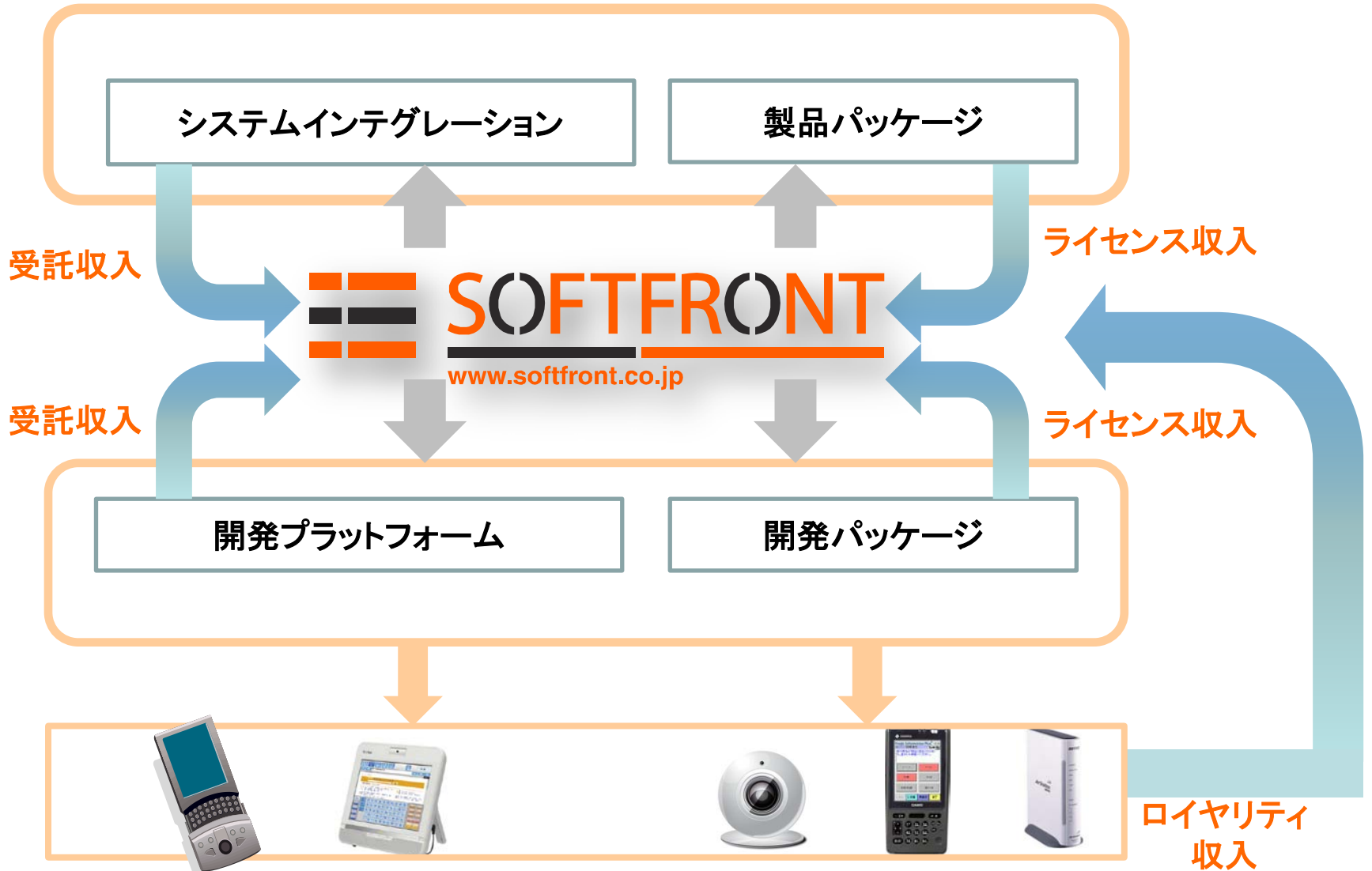
**SIPの役割**

## 事業概要

SIP、VoIP技術を核としたソフト開発環境の提供  
および 技術支援、関連する受託開発・コンサルテーション



# ビジネスフロー





# 主な取引先

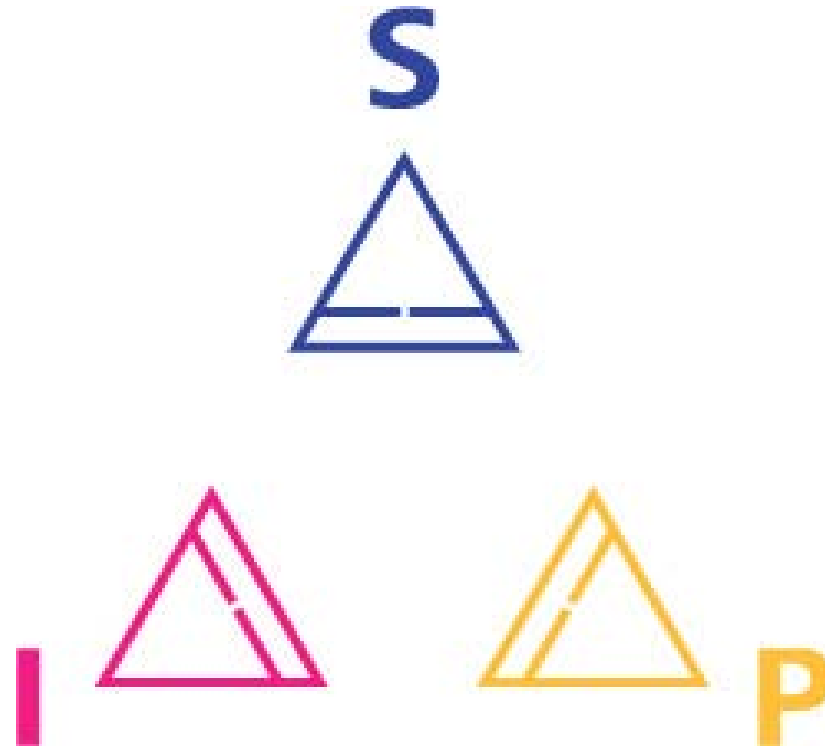
## 電力系通信事業者等

## 通信事業者等



## 各種メーカー等

# *SIP connects the future*



**ソフトフロントは SIP 技術を基に  
社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現します**